

信州大学大学院  
総合人文社会科学研究科  
人間文化学分野  
修士論文要旨集

令和5（2023）年度版

## 目次

中世日本紀の研究 — 『平家物語』 〈剣巻〉 の分析を中心に— 上村 明紀子（日本文学領域） .....	1
リベラルな多文化主義の可能性について 黒田 瑞樹（哲学・思想論領域） .....	3
プラトンの『国家』における三つの比喩について 山崎 綾乃（哲学・思想論領域） .....	5

修士学位論文等要旨  
Abstract of Master's Dissertation or Selected Topical Research

論文提出者／The person who submits a thesis

専攻名／Department	総合人文社会科学専攻
分野名／Division	人間文化学分野
学籍番号／Student ID	22UA101C
氏名／Name	上村 明紀子

論文等題目／Title

中世日本紀の研究—『平家物語』〈剣巻〉の分析を中心に—

論文等要旨／Abstract

〈中世日本紀〉とは、既存の神話・伝承等を中世当時の時流や価値観のもとに改変・合成していくことで日本の歴史に関する新たな言説を再生産していく営みであるが、戦乱の拡大に伴う武士の台頭によって為政者が朝廷から武士へと移り変わる過渡期の日本社会を描き出した軍記物語『平家物語』において、三種の神器にまつわる霊験・由緒譚を主題として付随する〈剣巻〉には、この〈中世日本紀〉としての潮流が見出せる。本研究は、中世日本社会で興隆し日本文学作品の幅広い領域に影響を及ぼした〈中世日本紀〉の潮流に着眼し、『平家物語』〈剣巻〉に見える三種の神器説話を中心としてその展開実態の解明を目指すものである。

第一章では本研究のテーマでもある〈中世日本紀〉、及び『平家物語』〈剣巻〉に関する基本情報と先行研究の概況を整理した。その上で、本研究においては『平家物語』諸本論・成立論の観点に偏りがちであった従来の〈剣巻〉研究の問題点を踏まえ、物語の展開幅それ自体の分析を軸とし、〈中世日本紀〉という文化的潮流の表出としての〈剣巻〉の展開実態を検討していく旨を整理した。

第二章では、本研究で中心的に扱っていく屋代本『平家物語』〈剣巻〉の基本情報を整理し、屋代本に含まれる巻十一型、別冊型の二種類の〈剣巻〉本文をそれぞれ詳細に分析した。更に、巻十一型、別冊型〈剣巻〉の二者間に確認出来る語りの差異や矛盾点、物語全体を貫く文脈の特徴などを比較検討し、屋代本『平家物語』における二つの〈剣巻〉がそれぞれどのような位置づけでもって語られているのかについて考察した。

第三章では第二章で分析した屋代本〈剣巻〉のテキストを軸としつつ、〈剣巻〉としての物語を有する他の『平家物語』諸本から百二十句本、延慶本、四部合戦状本、覚一本の四つの〈剣巻〉テキストを取り上げ、内容的な差異を比較検討した。また、分析を通して既存の神話を読み替える〈中世日本紀〉としての〈剣巻〉の展開幅を整理すると共に、見出された差異を「朝廷王権に対する解釈の違い」を基軸に整理し、それぞれの〈剣巻〉が抱える朝廷観と執筆姿勢

について考察した。

第四章では本研究で行った分析・考察の成果を総括し、今後の研究課題と展望について述べた。本研究は以上の四章構成で展開し、『平家物語』〈剣巻〉に見える三種の神器説話の分析を通して〈中世日本紀〉の潮流の実態の一端に迫ることを試みた。

修士学位論文等要旨  
Abstract of Master's Dissertation or Selected Topical Research

論文提出者／The person who submits a thesis	専攻名／Department	総合人文社会科学専攻
	分野名／Division	人間文化学分野
	学籍番号／Student ID	22ua102a
	氏名／Name	黒田 瑞樹
論文等題目／Title	リベラルな多文化主義の可能性について	
論文等要旨／Abstract	<p>本論文では、初期にリベラルな多文化主義仮説に関する影響力のある議論を提示した中心的な人物としてチャールズ・テイラーとウィル・キムリッカの議論を追いながら、リベラルな多文化主義の妥当性について検討している。</p> <p>第1章では、リベラルな多文化主義論がどのような流れを踏まえて形成されたのかについて確認した。</p> <p>第2章ではテイラーの多文化主義論について要約した。テイラーは、非手続き型リベラルの立場から、アイデンティティの承認を根拠とした、多文化主義政策を擁護する議論を展開したことを示した。</p> <p>第3章では、キムリッカの多文化主義論について要約した。キムリッカは、手続き型リベラルの立場から、リベラリズムの原則を根拠に、多文化主義政策を支持する見解を提示したことを説明した。</p> <p>第4章では、両者をリベラルな多文化主義を支持する論客として挙げたが、どのような点で両者は同じ立場であるといえるのかを整理した。両者の共通点は3点ある。1点は自我が形成される際に、ある個人が属する国家の文化や家族などの親しい間柄の人の影響を受けるといふ見解を示していること。2点目は、リベラリズムの原則に合致した権利を守りながら、多文化主義政策を認めることが理論的に可能であること。3点目はリベラルな多文化主義論を具体的な政策レベルでも支持していることである。</p> <p>第5章では、両者の違いについて言及した。両者はリベラルな多文化主義を支持する立場をとること、そして両者の共通点が大きく分けて3点あることについて確認した。しかし、両者が一枚岩であるとは言い難い。両者の違いは何かというと、手続き型リベラルの立場か、非手続き型リベラルの立場かという点に収束する。両者の対立は哲学思想史の観点からみると大きな違いであるかもしれないが、リベラルな多文化主義の有効性や実践をめぐる問題を検討する際、大きな問題にはならないことを示した。</p> <p>最後に、両者の議論に対する批判の検討と、それに対する応答を行った。両者の議論に問題</p>	

点があることは否定できないが、その点を加味しても説得力のある議論であることを主張した。

以上を踏まえて、主要なリベラルな多文化主義論を支持する論客の主張を確認し、批判的検討を行うことで、リベラルな多文化主義論の妥当性を再確認した。

修士学位論文等要旨  
Abstract of Master's Dissertation or Selected Topical Research

論文提出者／The person who submits a thesis	専攻名／Department	総合人文社会科学専攻
	分野名／Division	人間文化学分野
	学籍番号／Student ID	22UA104H
	氏名／Name	山崎 綾乃
論文等題目／Title	プラトンの『国家』における三つの比喩について	
論文等要旨／Abstract	<p>本論文では、プラトン『国家』第六巻～第七巻にかけて論じられている「三つの比喩」、その中でもとくに「線分の比喩」に注目し、三つの比喩の関係に関する問題と線分の二番目の部分であるディアノイアの対象に関する問題について考察する。第一章では、アイデアについての説明を行い、その後に太陽の比喩、線分の比喩、洞窟の比喩のそれぞれの概要を示す。第二章では、三つの比喩の関係について考察する。太陽の比喩と線分の比喩、太陽の比喩と洞窟の比喩はそれぞれ対応しているが、線分の比喩と洞窟の比喩は厳密に対応しているわけではないことを論じる。第三章では、線分の比喩の概要を再び示し、問題点について説明してから、ディアノイアの対象は何かという問題に関して、ディアノイアの対象は感覚的個物であるとする立場、ディアノイアの対象は数学的中間物であるとする立場、ディアノイアの対象はアイデアであるとする立場の三つの立場を示す。本論文では、これらの立場のうち、ディアノイアの対象はアイデアであるとする立場をとる。第四章では、アイデアとアイデアの分有がどのようなものであるかを説明し、プラトンが『国家』第五巻においてアイデアの分有に言及していると考えられる箇所を示す。その後に、本論文の第三章で述べたディアノイアの対象についての問題を『パイドン』で示されたアイデアの分有という考え方をを用いて解釈することを試みる。その際、ノエーシスの対象とディアノイアの対象はどちらもアイデアであるが、ノエーシスの対象はアイデアそのものであるのに対してディアノイアの対象は感覚的事物に分有されたアイデアであると考ええる。また、ディアノイアの対象はアイデアであるとする立場への批判に対してディアノイアの対象は分有されたアイデアであると考えて反論する。</p>	

信州大学大学院総合人文社会科学研究所

---

信州大学大学院総合人文社会科学研究科人間文化学分野  
修士論文要旨集  
令和5（2023）年度版

令和6（2024）年3月31日 発行

編集・発行 信州大学大学院総合人文社会科学研究科人間文化学分野  
〒390-8621 長野県松本市旭 3 丁目 1 番 1 号  
信州大学大学院総合人文社会科学研究科人間文化学分野内

---